

名戸ヶ谷ビオトープだより

第56号 2014年冬号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

第12回定期総会開催 1月25日(土) 10:00～13:30(懇親会まで)

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」第12回定期総会が、1月25日に名戸ヶ谷ふるさとセンターで開催されました。

出席者数25名、来賓2名と多数の出席で、会長、環境保全課の原田課長の挨拶で始まりました。議案の審議で、全般・稲作・生きもの・植物・広報の2013年の報告と2014年の計画があり、全員の拍手で承認されました。また会計決算・監査報告・予算案についても全員の拍手で承認されました。

第2部では「さかいね下田の杜友の会」の森氏による「柏の自然を残したい」についての講演がありました。下田の森の保全活動はじめ「柏の自然と生きものフェスタ2013」など多くの環境保全活動で活躍されている森氏の体験談と今後の目標について1時間を超す熱演をして頂きました。ありがとうございました。

総会、講演会を終えて12時過ぎから懇親会が例年通りに行われました。来賓2名と森講師も交えて、都合で一部退席される方もいましたが20数名が参加され、篠崎会長からの乾杯で始まり、特に新規会員の増加策について全員へ強い要請がありました。懇親会の

準備は、橋本、佐藤両幹事のお骨折りで、寿司・飲み物・つまみ類を揃えてもらい、楽しく飲み食い歓談しました。日頃なかなかお目にかからない人ともじっくりといろいろな話すことが出来、親睦の輪が広がったと思います。

(小笠原 智)



総会



講演会(森氏)

収穫祭 2013年11月3日(日)実施



また、今年も11月3日(日)文化の日に「収穫祭」が行われました。

お天気にも恵まれ、ぽかぽか陽気の中、自家製のお餅を堪能いたしました。

今回は、会として新しくかまどと釜類を新調したためでしょうか・・・、白で餅をつく姿にも新鮮さを感じられました。

ただ、元気一杯に食べてくれる子供が少なかったのが、担当としては少し寂しかったのですが、また近い将来、この名戸ヶ谷の田んぼに子供たちが野鳥のように舞い降りてくることを夢見ております。

今後も皆様のご協力をよろしくお願いします。

(橋本 保明)



秋の生態調査

2013年11月18日(月)実施

晴れて暖かな日となり春に続いて秋の生態調査を実施しました。

柄澤氏に依頼し、松清さん、佐々木さん、佐藤さん、藤平と5名の参加でした。9:30～11:30までの2時間で日が昇るにつれて昆虫類も増えて飛び回って来ました。捕獲網を持って捕まえた昆虫、魚類を容器に移し名前の確認とリストアップの作業です。

事前に仕掛けしていたザリガニ釣り場の網の中にウシガエル成体一匹もかかっているのが早速写真に収めました。その他定番のアメリカザリガニ、カダヤシ、スジエビなどです。合計39種の生きものが確認(春は46種)されて晩秋の時期としてはまずまずであったと思います。

今回はスケジュールの関係で遅れましたが、今後10月には実施したいと思います。(藤平 三郎)



生態調査の様子



ウラギンシジミ



ウシガエル

新藁でしめ縄づくり

2013年12月26日(木)実施

年も押し迫った12月26日(木)10時から恒例になっている新藁を使った正月飾り用の輪飾り作りを木村家物置前にビニールシートを敷いて行いました。

今年は担当者の都合で直前になって急遽1日順延にしたためか参加者は3名と少なかったが、薄曇りながら風もなく穏やかな日の中でおしゃべりを楽しみながら行いました。(影山 賢三)



作業風景



Aゾーン湧水管に飾る

2013年植物調査記録

2013年の植物の調査結果をまとめましたので、ご報告します。

1. 雑草類の侵入が増加

- * Bゾーン湿地とAゾーン湿地に侵入する雑草類が増加している
- * 侵入雑草は、非湿生植物で、ミント、つる植物（ツルマメなど）、ツユクサ、など
- * 特に13年では、ツユクサの増加が目立った
- * 侵入雑草は、毎月の合同作業日に手鎌による選択刈取りで除去した

2. 湿生植物の種数が減少

- * 湿生植物の種数が減少した
<湿生植物の生息種数の推移>

	07年	09年	13年	09年/13年 増減
水田雑草（タネツケバナなど）	26	29	23	▲ 6（メアゼテンツキなど）
中小型湿生植物（アカバナなど）	19	19	17	▲ 2（ホタルイなど）
大型湿生植物（ヨシ・ガマなど）	9	10	11	1（ハンノキ）
合計	54	58	51	▲ 7

<13年に花が見られなかった8種の内訳>

カヤツリグサ科	ホタルイ、ヒデリコ、カワラスガナ、ウシクグ、メアゼテンツキ
その他の科	ヤナギタデ、アゼナ、アシカキ（葉はあるも開花せず）

- * 減少した背景
 - * 消滅した8種の殆どは、土の攪拌がなくなったため衰退したと思われる。
 - * ビオトープの植生環境が安定化したことによる衰退で、「避けがたい現象」と考える。

3. 重点保全対象植物の状況

<重点保全対象植物>

湿生植物	アカバナ、ヒメウキガヤ、イチョウウキゴケ、ウキヤガラ、マツカサススキ
湿生植物以外	ヒメヘビイチゴ、タチツボスミレ、ヒメスミレ

*このうち、アカバナ・ヒメヘビイチゴ・ヒメウキガヤ・ウキヤガラ・マツカサススキは良好な状況

アカバナ開花個体数 13年／192本（09年／19本）

*イチョウウキゴケは、13年は個体数が18本と、衰退傾向のままとなっている。ところで、イチョウウキゴケの生態については不明なため保全策が講じられない状況。

*タチツボスミレとツボスミレは絶滅寸前の状況。タチツボスミレについては、石垣を整備することにより何とか保全につなげられないか、試行模索中。ツボスミレは石垣への移植を考えてみたい。

4. その他の特記事項

*自生のハンノキが花をつけた。更にもう一本自生のハンノキが出現し、2015年には開花が期待できそう。(佐々木 光正)

ビオトープと鳥 コチドリ



昨年4月にビオトープで初めてみつきり、その後夏にかけて複数の会員の方が観察しています。日本には夏鳥として渡来するが4月から10月まで観察することが出来る。手賀沼及びその周辺の観察記録でも月に1～2羽と少ない。餌は昆虫などの小動物なので、ビオトープは恰好の餌場と思われる。目の縁は、はっきりとした黄色のリングが特徴である。

スズメより一回り大きい、チドリの仲間では最小である。Aゾーンの水田の畦を歩いているときは、「ピオ、ピオ、ピオ」とか、「ピピ、ピピ、ピピ」と短く鳴くが、ヨシの中に入っているときは「ピ

ピピピ」「ピピピピ」とか「ピーヨ、ピーヨ」と連続して鳴いていた。水田以外のところでは、川の中流から下流の砂礫の河原を生息場所としている。

最初、声はすれども姿を見せづ探すのに苦労をしたが、かなり長い時間ビオトープの倉庫の前から双眼鏡で探して、やっと見つけることが出来た。まだ田植えされていない時期だったので、水田の中を歩いては止まり、また別の方向に歩いては止まる。酒に酔った人の歩き方を千鳥足というが、コチドリの歩き方が語源と言われている。

また、ガンやマガンと同様に雛を連れた親鳥は、人間に出会うと擬傷（翼をばたばた羽ばたいて、あたかも負傷して飛び立てないような動作）をして、注意を引き、ヒナを安全な草むらに避難させる習性がある。（千葉県重要保護種）(篠崎 将)

ビオトープと私

村上 千恵子 さん



「お米を作っているんだよ。」この声に誘われてビオトープの会に入会して1年が経ちました。

毎日の生活では、ネコの額ほどの庭の草取りを「見なかった事にしよう。」と後回しにしてきた私が、4月の作業日には、長靴を履き、鎌を手にして、湿地帯の草刈りを楽しんでいました。

お米作りは、本当に面白い事がいっぱいでした。

まずは、5月の田植え。挑戦はしたものの深い田んぼから足が抜けず（私の体重のせいです）転ばぬ事を念じ、先輩方の迷惑になりながら作業を終えました。

9月の稲刈りには、木道を一輪車（車の運転は出来ませんが、一輪だと思えるように動

いてくれません）で刈った稲を運び、天日干し棒に掛けていきました。

10月の脱穀ではビックリです。使っている道具が「房総のむら」で見たような物だったのです。木の円筒形の物（足踏み脱穀機）を回して、実と藁に分け、ふるいと通し、その後大きな箱に通すと籾の完成です。風のない脱穀日和の日でしたがマスクは必需品です。

11月の収穫祭では、お釜で炊いた御飯でおにぎりを作りました。その時なつかしかったのが、底に出来たおこげです。昔、家ではガスでしたがおこげおにぎりは食事のおまけで嬉しかったのを覚えています。

作業の邪魔になったり、失敗もありましたが、平成25年はお米の出来るまでを体験出来た充実した年でした。

これからも楽しくビオトープに関われたらと思っています。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ

面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）